



陰鬱の梅雨森々として降る此頃
四季を通じ最も心霊的に不快の
感... 襲え来る乎。
新田町の紅燈街も頗る陰鬱且つ
閑散は其の限りであるを申せざ
一行司に最高百八十五本... 最
低十八本と云ふ、ドモ面白かる
べき異様對照は何物を物語る?
運命の神様は頗る公平に其のこ
とを授け給ふ乎。

著名好評店案内記



谷口の政勇 昨夜或る旗亭
で〇〇式の重話、實に素的
だね、所謂「門前の小僧習は
ぬ御経を讀む」のたとへでせ
う夫れ故にね?
五月雨降る日 磐越東線に東
山温泉行きと... した、二
美人對二紳士、是れも情實對
〇〇の交換條件かと、頗る不
思議なりと、口惜つても後の
祭りさ、ね〇〇の〇〇助君御注
意第一よ。

(其七)

▲玉川の政榮 姐さんは先日アノ
〇〇體はね、とサトサンが口惜
つて居つたけ。
▲〇〇長のミサン 御紳士の體
面と御商買に御障りがありま
すよ、せめて藝者連の悪口罵
聲の連發だけは御慎みなさい
と、〇〇が申して居りますよ
▲先日の土曜日の夕刻〇〇タク
シの美事に窓深く隠れて、
湯本の〇〇に御一泊した誤紳
士と姐さんは〇〇でせうか當
て御覽なさいよ。
▲山形家の君香 酔ふてゐる
間が極楽浄土、醒めりや儂な
い雨の宿で御座んせうかね
▲飯井竹庵君 先日平館の貝殻
一平を〇〇子と御同伴は、百
パーセンの有効宣傳でせうと
岡焼連が騒ぐトト。
▲品澤の奴「晴れぬ思ひは五月
雨日記、今日も泣いたと書い
たま、」彼の青年〇〇君も淋雨
降る此頃の悲戀に泣いて居る
でせう。

▲石川亭 電話四三番
平町の花柳界を背景とし最も
繁華なる地の利を占めて居る
田町の石川亭は、秋より淺春
迄は牛肉料理として常磐線の
業者を壓する程の安價と美味
で、即ち牛肉なら石川との定
評である。
冬は牛肉料理で石川亭は
夏季中は獨得の柳川鍋を以て
頗るの好評を博して居る。柳
川の味を求めんとせば石川へ
一度は試みられよ、記者は勸
む、尚ほ「水」の御用には電光
石火の速度を以て配達すると
す。

▲梅月 御江戸日本橋の
梅月と申せば、江戸ッ兒の禮
讃する「おでんや」である。
平町二丁目西村屋藥店の横町
の「梅月」も即ち通人食堂で頗
る好評である。
主人夫婦はトモ性格的に與
味ある人々で、一度同店に到
りて安直な享樂氣分を漂はせ
るか? 未知な青年が「初戀」
の惱みの影趁ふ如く、一度よ
り三度... 五度... と物見岡

▲大谷時計病院
一體平町の商界は頗る消極な
保守的な頭腦の人々が多い様
である。
然し保守的や消極政策を斷
乎として排撃、業界の尖端に
嶄新に奇抜に、頗る徹底した
新營業方針を以て奮闘する。
我大谷時計店の夫れである。
時計部と蓄音器部と洋品雜
貨部の三部に區分せられて最
も意義ある方法を以て成績を
擧げつゝあり。
因みに同店の特約せる蓄音
器等は、ビクター、コロムビ
ヤ、ポドール、ヒコトキ、
オリエント、エグールである
記者は若主人大谷武雄氏の新
營業振りは殊にウエスタの裝
飾等は常に相當なる研究と抱
負ある事は大に敬服して歌ぬ
のである。

▲萬屋商店 平町四丁目
中央街に堂々たる店舗を有し
ヨロヅヤ商店の好評なる所以
を列記して御紹介致さう。
店主鈴木與市氏は頗る圓滿な
る常識と明敏なる商才の持主
である。
一昨年の春より自動車部を併
置し、本来の果物、野菜等の
卸問屋としての大量取引を萬
洩なく、常磐地方切つての大
手腕を發揮しつゝあり。
令息 勇氏は商業學校出身の

▲四十を超えた人に
誰れでも四十を過ぎれば身體の
諸所にこれまで経験しなかつた
いゝの故障が起きるもの
である。物事を忘れ易くなり、肩
の腰の手足の關節に鈍痛が
起る。安眠は妨げられ、精神的
にも、肉體的にも耐久性がなく
なるなど、之は云ふまでもなく
全身に營養を配給する血管がツ
ロ、硬化しかける爲めに他な
催眠薬を用ひたり、下劑をか
けたり、或るは鎮痛薬を服んだ
るだらうが一時は局部的に押へ得
る血管といふ根源に對して何等
の手當を加へないからである
幼若動物の血管から抽出したホ
ルモンを主劑とした新發賣品で

祝創立一周年
磐城炭礦株式会社
入山炭礦株式会社
古河炭礦株式会社
平町四丁目八番地
↓
萬屋貨物自動車運輸部
果實問屋營業人 萬屋
電話二七三番
御料理 平田町
柳川 石川亭
電話四三番
平町三丁目
大谷時計病院
電話一九番
平町二丁目(西村屋裏通り)
梅月
代理店
福島縣平町五丁目角
山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎
(健康保險藥局)

恐るべき
中風
腦溢血を
速治せしむる
アイ
ヨロ錠
血壓を下げ
血管を返り
中風を全治す
早老及老衰を豫防す
中風の原因は血管の硬化にお
り、血管硬化すれば血圧高ま
り、精神的並に肉體的に退行
現象を生じ、所謂老年病を誘
發す。或は中風、腦溢血を突
發す。
アイヨロ錠の應用は血管に若
返り現象を興へ、老衰の進行
を緩徐ならしめ、初老及中老
期に隨伴する總ての不快症を
除去し、中風を豫防す。
動脈硬化症、高血壓
症、初老期に於ける
体力及精力減退、中
風、腦溢血の豫防に
常用すべき貴重藥
百四十四錠(八日分)貳圓
四百八十六錠(半月分)貳圓
千八百〇(百日分)二十圓
製造元 東京
阿久津化學局
代理店
福島縣平町五丁目角
山野邊藥局
藥劑師 山野邊東次郎
(健康保險藥局)